

## 平成 29 年第 12 回 沼津市教育委員会定例会会議録

1 日時 平成 29 年 12 月 21 日（木）午後 3 時～午後 4 時 20 分

2 場所 沼津市役所 8 階 802 会議室

### 3 日程

(1) 開会

(2) 会議録署名人の指名（土屋委員 川口委員）

(3) 教育長報告

(4) 議案

議第 24 号 自家用車の公務使用に関する要綱の一部改正について

(5) 協議

なし

(6) 報告

1) 平成 29 年 11 月市議会定例会一般質問等について

2) 第 18 回静岡県市町対抗駅伝競走大会沼津市チームの結果について

3) 平成 29 年度沼津市スポーツ栄誉章及び沼津市特別スポーツ栄誉章の授与について

4) 高尾山古墳について

(7) その他

### 4 出席者等

教育長 服部裕美子、教育長職務代理者 土屋葉子、委員 三好勝晴、  
委員 川口浩史、委員 重光純、教育次長 山田昭裕、  
教育指導監兼学校教育課長 大川淳、教育企画課長 真野正実、  
学校管理課長 佐藤高志、文化振興課長兼戸田造船郷土資料博物館長 中島康司、  
スポーツ振興課長兼インターハイ準備室長兼勤労者体育センター所長兼都市計画部香陵公園周辺整備室副参事 山岡慶博、  
調整担当教育企画課長補佐 矢田陽子、教育企画課副主任 長剣吾、  
教育企画課事務補助員 松井沙弥香

### 5 会議内容

服部教育長が、午後 3 時開会を宣言する。

服部教育長より会議を公開とすることを委員に諮り、了承される。

傍聴人 0 名

(1) 会議署名人の指名

服部委員長より会議署名人に土屋委員、川口委員を指名する。

(2) 教育長報告

服部教育長

はじめに、私から 11 月議会の報告と、活動報告をさせていただきます。

11 月 24 日に開会した 11 月議会は、12 月 15 日に閉会した。

教育委員会関係の一般質問については後程事務局より詳細に報告させていただきます。

学校教育に関連するものとしては、LGBTs（性的少数者）の理解及び本市の取り組み、学校給食費の会計処理、学校図書館を活用した教育の推進、小中学校教職員の働き方改革と学校施設の複合化の方向性、いじめ防止対策などについて質問があり、答弁させていただきました。

議会を通し、性的少数者の問題、いじめ防止対策を含めた多様な子供の状況への共感的理解、いつでも相談できる体制づくりについて整えていく必要性を感じた。また、教職員の働き方改革についての取り組みも主として進めていかなければならないと考えている。また、戸田小学校の屋外避難階段、県立高校の統合問題についての質問があった。その他、歴史民俗資料館について、市民体育館の集客イベントの開催基準のクリアについて等の質問があった。後程報告させていただきます。

次に、前回の教育委員会以降の活動についての報告をさせていただきます。

配布資料である行事予定に記載されていないが、10 月に沼津市芸術祭が開催された。開催中は 19 部門と様々なジャンルでの催しが行われ、11 月 18 日にプラサヴェルデで表彰式と閉会式が行われた。市民文化センターやプラサヴェルデを会場とした多様な作品展や舞台発表の他、御用邸記念公園での茶道や市立図書館での寄席、沼津文芸冊子での作品の発表等今年も非常に充実した内容であった。自分も駆け足で会場を回らせてもらったが、教育委員会と沼津文化協会の主催による芸術祭で、本当に多くの市民団体や個人の方々が参加し、今年で 44 回目を重ねるということで、大変歴史ある充実した文化祭であり、沼津市の素晴らしい文化であると感じた。

11 月 18 日に第五地区センターで NPO 法人沼津市体育協会主催の各種競技の優秀選手、優秀団体、優秀指導者の表彰式が行われ、出席した。

11 月 21 日には沼津朝日賞の表彰式に出席した後、沼津市民文化センターで開催された沼津市いじめ問題調査委員会に学校教育課長、係長、担当指導主事と共に出席した。この会は沼津市いじめ問題調査委員会条例に基づいて、いじめの重大事件が発生した場合に、事実関係を明確にするための調査を行うものである。今回は重大事件の発生によるものではなく、定期的な開催として、市内のいじめに関する情報をお伝え

し、様々な意見を頂いた。弁護士、医師、学識経験者など、県内の有識者6名からなる委員の方々から、アンケートの取り方や相談しやすい体制づくり等様々な意見を頂いた。早速取り入れられるところから始めていきたいと考えている。

11月25日、26日には第27回さんさん学習フェスティバルが市民文化センターで開催された。市内各会場で、年間の学習として開催されている高齢者の万年青大学や寿大学の展示発表や舞台発表が非常に盛大に行われた。文化センター1階2階の各展示会場には、多くの方が訪れて、作品を眺めたり作品作りに挑戦したりしていた。参加者から、こういった発表の場が励みになる、楽しみであると多くの意見をもらった。生涯学習の貴重な場であり、有意義な場であると実感した。

11月25日には今沢中学校グラウンドでの球技大会に出席したのち、片浜地区センターで行われた静岡県市町対抗駅伝の沼津市チーム結団式に出席した。選手たちが過去最高タイムを目指す目標を語っていた姿が印象的であった。当日は選手が一秒でも早くたすきを渡そうとする姿に力をもらった。選手である小中学生の活躍も目覚ましいものであった。

11月26日は図書館4階にて、沼津ユネスコ協会主催の小中学生絵画展表彰式に出席した。「わたしのまちのたからもの」をテーマに、どの絵も子供目線で捉えた地域の良さや想いが伝わってきた。

12月3日は沼津千本ライオンズクラブ主催の「千本賞」の表彰式に出席した。この表彰式では様々なジャンルで地道な活動をする子供たちを表彰し、仲間や後輩にとっても、大変励みになっていると感じた。指導や支援してくださっている、またこういった表彰の制度をつくっている周囲の方々の力が、子供たちの力をつなげ育てているのだということを感じた。

今回、芸術祭をはじめとした様々な行事に参加し、長い間市民の方々が大事に育てている芸術文化やスポーツが土壌となり、若い世代に受け継がれ、沼津の中でしっかりと蓄積されているということを感じた。素晴らしい活動や作品にスポットが当たるということは、多くの子供たちの心に染み込んでいくように、人を育てていくものだと思う。教育委員会として、豊かな教育環境を整えていく努力をしていきたいと思う。

以上、説明が終わったが、質問等はいかがか。

特に無いようなので、以上で教育長報告とさせていただきます。

<議案>

服部教育長 それでは日程（4）議案について

議題 24号 自家用車の公務使用に関する要綱の一部改正について

(学校教育課長 資料に基づき説明)

- 服部教育長 説明が終わったが、本件に対するご質問、ご意見はいかがか。
- 三好委員 今まで出張先で一番遠かったのは、今説明のあった場所（静岡県教育委員会の掛川市にある総合教育センター）か。
- 学校教育課長 教員が主に出張するのは、掛川市が一番遠い。
- 三好委員 教育委員会全体で遠い出張へ行く時に公用車を使用することは今まででもあると思っていたが、実際はそうではないのか。
- 学校教育課長 その先に行くと浜松への出張となるが、浜松となると新幹線で行く。掛川では泊まりの出張も多くあり、その場合は1日で200キロいかないため、車を使用している。
- 三好委員 現在沼津には教職員研修センターがあるので、掛川に行く回数は大分減ったと思うが、どのくらいの頻度で行っているのか。
- 学校教育課長 基本的に掛川でやらないような研修を沼津で行うという形のため、研修内容は重複していない。掛川では基本的には法定研修を行い、例えば10年経験者研修など、法律で定められたものを行っている。
- 川口委員 先生方が車で行く場合に、ガソリン代は交通費として支給されると思うが、例えば事故が起きた場合の補償関係はどうなっているのか。
- 学校教育課長 自家用車を公用車として使用する場合には保険の条件があり、対人や対物の金額は定められている。それらの条件をクリアしないと使用してはいけないことになっている。
- 服部教育長 そのほかにいかがか。  
意見も尽きたようなのでお諮りする。  
議題24号 自家用車の公務使用に関する要綱の一部改正について原案どおりとすることによいか。
- 各委員 意義なし。
- 服部教育長 異議なしと認める。  
議題24号 自家用車の公務使用に関する要綱の一部改正について、原案どおり可決することに決する。

<協議>

- 服部教育長 日程（5）協議事項については、本日は案件なし。  
それでは、日程（6）報告に入る。

<報告>

- 1) 平成29年11月市議会定例会一般質問等について  
(教育次長 資料に基づき説明)

- 服部教育長 説明が終わったが、本件に対するご質問、ご意見等はいかがか。

土屋委員	学校図書館の司書についての質問があったが、学校司書の人数等市内の現状を聞きたい。
学校教育課長	現在 18 名の学校司書がおり、1 人につき 2 校あるいは 3 校担当している。小学校には基本的に週 2 回、中学校には週 1 回 3 時間から 4 時間程度の配置となっている。制度が始まって 10 年経ったが、始まった当初は 1 日 7 時間で 2、3 週間に 1 回だった。そこから特に小学校は倍近くに時間数を増やし、手厚く支援している。学校側から特に意見はもらっていない。
服部教育長	司書教諭がそれまで担当しており、図書委員の子供たちと棚の整理をしたり、保護者のボランティアを募ったりしていた。専任の学校司書が積極的にやってくれることによって、季節感があったり、おすすめコーナーができたりと大変図書室が整備されてきているという声を聴く。他はいかがか。
三好委員	今回深田議員から学校司書について相当細かく質問されているが、司書が少ないと思って質問しているのか、質問の意図がわからない。今の返答を聞いていると、司書の人数は妥当だと思う。給与はどこからどういう形で司書に対し支払っているのか。
学校教育課長	学校教育課の予算で、時給 1000 円を支払っている。児童生徒支援員等も今年度多く配置しているが、すべての支援員は基本的に時給 1000 円としている。
三好委員	人数も妥当であるし、予算も妥当であると感じる。
服部教育長	図書館司書制度が始まって 10 年経つということだが、10 年目のベテランの学校司書もいれば、新人の方もいる。色々と整備してくれるだけでも助かるという様々な事情があるので、学校司書全体の研修の質を上げていくという内容の答弁をさせていただいた。司書同士で協力し合ったり、情報を共有したりできるようになるといいと思っている。
三好委員	学校給食の沼津の私会計が公会計になるということは、一般で負担させずに市がすべて負担するということか。
教育次長	現状は私会計で行っている。私会計を公会計に変更したからといって、給食費すべてを沼津市が負担するわけではない。学校給食にかかる費用は、基本的には学校給食を実施する沼津市が徴収する。しかし学校給食費の中で食材に関する料金については、PTA から徴収してもいいということになっているため、現在徴収させてもらっている。その徴収の仕方は、現在私会計ということで、学校の先生が徴収したり口座振替したりしている。一方で、公会計ということで既に市が徴収している市町もある。こうした私会計、公会計という話題は、教員の働き方改革に関わ

ってくる。教員はただでさえ多忙化しているのに、学校の給食費まで徴収しなければならず、中には払わない人に対して説得しなければならない場合もある。こうした現状の中で、文科省と総務省が給食費の公会計化を進める方針を示した。来年度から文科省が公会計化を進めるためのガイドラインを作成していくという話も聞いている。そうした現状の中で、沼津市の場合は今まで私会計で行っている。今後は多忙化解消と効率化をはかるためにも、私会計よりも公会計化して、徴収事務を市の方で行った方が良いということになる。ただし、人件費もかかり、システムの導入も行わなければならないため、中々すぐには進めることはできない。時間はかかってしまうが、今後検討しつつ、早い段階で公会計化していきたいと考えている。

三好委員 市による公会計という考え方が出出したのは、ごく最近のことか。公会計化ということは、給食費が払われない場合に市が徴収するということが理解している。今までは各学校に任せられていたことを市が行うということか。

教育次長 そういうことになる。現状では静岡県内の市町村の半数程度が一部公会計化しているという現状がある。つまり半数くらいは直接学校が関わらずに食材費を徴収しており、未収金があった場合も市が徴収している。ただし、大きな市では私会計の方が多く、公会計を行っているのは小さな市が中心である。今までやっていた体制を変えることは難しいが、やっていかなければならないと思っている。

三好委員 一部公会計化というのは、市内の学校ごとにやっているところとやっていないところがあるということか。

教育企画課長 合併との関係で、同じ市内でも旧制度で通さなければならない自治体があった。特に浜松市は市町が多かったため、旧制度から統一して新制度に中々移れないという状況があった。

三好委員 公会計化を行うとしたら市全域で公会計化にするか、一部私会計のまま進めていくかということは決めているのか。自分の経験から、PTAの集金係による徴収は徴収率が高いが、口座振替だと未納率がより高まると思う。しかし未納だからといって子供たちに給食を食べさせないということもできない。未納が続いてしまうと市の会計に響くと思うので、結構大変なことだと思う。様子を見ながらやっていくことが良いと思う。

川口委員 ICT化について、現在沼津市内の小中学校は同じ校務支援システムを使用しているのか。

学校教育課長 全ての学校で同じ校務支援システムを使用している。

川口委員 学校教育課長	大阪府箕面市で使用されている次世代型支援システムとは違うのか 色々な企業が校務システムを出しており、それぞれ多様な機能があり、 予算に合わせて機能の追加を行っている。そうしたシステムの機能も さらに進化しており、箕面市の場合は子供の体調面など細やかなデー タも引き継ぐことができると聞いている。しかしそのためには非常に 多くのデータを入力していかなければならない。そうしたやり方だと、 教育の負担過重になるのではと危惧している。現状の沼津市のシステ ムは導入してまだ2年目だが、システムの機能が非常に多くなり、教員 はそれで満足しているような状況である。さらに今後100%フル活用で きるように研修を行っているところである。沼津市は現状のままでも 一番良い形になっている。
服部教育長	市内が同じシステムを使うということは、異動しても同じシステムを 使うことができ、情報の連携ができて事務の効率が上がっているとい うことになる。
川口委員	市内で転校しても、このデータを持っていくことができるということ か。
学校教育課長	データを持っていくことができる。
服部教育長	他に何かあるか。
土屋委員	渡部議員の最後の質問の方に、沼津市も全国 ICT 教育首長協議会へ参 加したらどうかという質問があったが、市長の答えが教育委員会と協 議して決めるということだったと聞いているが、教育委員会としては どうしたらいいと思っているのか。自分で調べたところ、静岡県内でも まだ4市しか加入していない。昨年からは始まったということで、内容的 にはあまりわかっていないような状況のため、どういう風に考えれば 良いのか。私個人としてはまだ様子見でいいのではないかと考えてい る。市長としての意見はまだ出ていないのか。
教育次長	この件に関しては、研究して参ります、と言っていた。
服部教育長	様々な声があるので、状況や情報を收拾しつつ、進めていってほしい。 他に何かあるか。
重光委員	山下議員の LGBT s の質問だが、これに関する児童に対する教育や説明 はどのようにやっつけようと思っているのか。いじめにつながることも 考えられる。また、私の経験上、近年性犯罪が低年齢化しており、子 供に対する性犯罪が非常に悪質なものが増えている。今の学校教育に おいて、性教育というのは何年生から開始しているのか。参考までに現 状を教えてほしい。
学校教育課長	沼津市は20年以上前に性教育に関する資料を作成しており、全学年で

段階的に性教育を行っている。その中で、LGBTsの問題については、性教育の面からも切り込めるし、近年力を入れている人権教育としても扱うことができると考えている。

三好委員  
学校教育課長

性教育の開始時期はいつか。

例えば理科だと5年生あたりで性に関する内容が教科に入ってきている。そのようにどの学年でも性教育を行うようにしている。

服部教育長

沼津市では小学校1年生から性教育を開始している。例えば1年生であれば、「私の誕生」ということで、自分が生まれた時のことに絡めて学ぶ。2年生では身体の特徴ということ、男女の身体の違いというもの、また5年生くらいになると、保健体育の学習や理科の生物学的な学習に絡めながら学ぶ。学級活動、指導、様々なものに絡めながら性教育を行っている。このように、沼津市では小学校1年生から学年に応じた内容を行っている。

三好委員  
服部教育長

昔は男女別れて性教育を行っていたが、現在はどうか。

現在は男女ともに行う。LGBTsについては、まずそれぞれの学校で状況や問題を十分に把握していくということを答弁させていただいた。今年度は養護教諭が研修会を開き、そういった問題に学校としてどう取り組んでいくのかということ、様々な人権や子供が抱える様々な悩みと一緒に考えてく予定である。

服部教育長

他に質問はあるか。

無ければ本件は報告を受けたということでご了承願う。

2) 第18回静岡県市町対抗駅伝大会沼津市チームの結果について  
(スポーツ振興課長 資料に基づき説明)

服部教育長

説明が終わったが、本件に対するご質問、ご意見はあるか。

無ければ本件は報告を受けたということでご了承願う。

3) 平成29年度沼津市スポーツ栄誉章及び沼津市特別スポーツ栄誉章の授与について  
(スポーツ振興課長 資料に基づき説明)

服部教育長

説明が終わったが、本件に対するご質問、ご意見はあるか。

無ければ本件は報告を受けたということでご了承願う。

4) 高尾山古墳について



(文化振興課長 資料に基づき説明)

- 服部教育長 説明が終わったが、本件に対するご質問、ご意見はあるか。
- 三好委員 これは古墳の下をトンネルが通るとい形になっているのか。どのくらいの深さまでなら古墳に影響が出ないというのは目途が立っているのか。
- 文化振興課長 上り線をトンネルで通すことに関して、古墳周辺の調査の結果、古墳の下に高尾山古墳以外の遺跡が所在する可能性は非常に低いと判断されている。ついては、古墳下にトンネルを通ることについて支障はないと認識している。
- ちなみに、このように古墳の下にトンネルを通す例というのは全国的に見ると他にもあり、徳島県の鳴門市の大代古墳や京都府の綾部市の私市円山古墳という事例がある。
- 教育次長 高さとしては古墳下1mを残して、さらにその下にトンネルを掘る予定である。
- 三好委員 トンネルはしっかりした構造で造り、崩れたりすることはないということで大丈夫か。
- 教育次長 難しい工法になると思うが、今の技術力をもってすれば、その程度のトンネルの構築は可能であると考えている。
- 三好委員 東側は橋になるのか。
- 文化振興課長 西側がトンネルで、東側は橋梁で越えていくということになる。
- 教育次長 それが大体最高3mくらいになる。
- 三好委員 そこは後々色々と整備を重ねて、他県の方々から十分見てもらえるような場所は確保できるということか。
- 文化振興課長 整備については、道路と一体的な整備や、景観にも配慮した整備というのを今後目指す予定であり、この場所は東名から降りてきて沼津の玄関口であるため、皆さんに見ていただけるようなものにする予定である。今回、橋梁で越えることで、橋梁の下の部分についてもスペースが活用できるようになり、古墳の状態を実際に目で見て体験できるというメリットもある。
- 三好委員 道路が全て古墳の下にできるといいと思うが。
- 教育次長 全て古墳の下というのは、構造的に不可能である。特に下り線をトンネルにすると、勾配がきつくなり、構造基準を満たさない。上り線は前に信号があるので、そんなにスピードが出ないまま上がっていきけるが、反対側から来るものについてはスピードを出して降りてくる。そうすると道路の構造的に厳しいため、上りは良いが、下りは難しい。

服部教育長

他に質問はあるか。

無ければ本件は報告を受けたということでご了承願う。

<その他>

服部教育長

その他、何かあるか。

1) 沼津市内の2学期の小中学校の状況について

学校教育課長

沼津市内の2学期の小中学校の状況について報告させていただく。

交通事故の状況について、平成26年度片浜小学校の児童が登校中に亡くなったという事故をうけ、平成27年度はかなり少なくなり、小学校10人、中学校8人だった。しかし昨年度は小学校23人、中学校13人と増えたため、学校による指導を手厚くしてもらったところ、今年はまた減少し、小学校19人、中学校9人ということになった。今後もより手厚く指導していきたい。時間帯は小学生については帰宅後が多くなり9件、休日が5件、中学生は休日が4件となっている。状況としては小学生の飛び出しが6件、横断中が3件、中学生は自転車で一時停止違反をしていたための事故が3件ということになっている。この辺りも厳しく指導していきたいと思っている。

続いてインフルエンザの状況についてであるが、12月に入って急増し、12月以降学級閉鎖になった学校が門池小、金岡小、金岡中、浮島小となっている。12月20日現在、インフルエンザによる欠席がいる学校が16校、インフルエンザにかかっている児童生徒数は109人という状況である。年が明けるとさらに流行することが予測される。

続いて英検の状況である。英検の受験料を補助するようになり2年目となるが、本年度の中学3年生1611人中3級以上を受験した生徒が719人、合格者が512人とこれは全体の32%となり、昨年からさらに増えている。今年度は1月に3回目の受験があり、合格者が増えると思っている。さらに文科省の調査で英検3級以上を取得していないが、3級以上の実力を持っていると教員が判断する生徒というのは全体の22%いる。取得者と合わせると全体の54%となり、文科省の3級取得を50%以上にするという目標を達成しており、実際に取得しているわけではないが50%以上の生徒に力がついてきているということになる。この22%の、取得していないけれども実力を持っている生徒が受験するように今後も呼びかけを続けたいと考えている。

続いて、小中一貫教育についてである。小中一貫教育については、

色々なところで話をしているが、今後推進していくために、30年度、31年度にかけて全ての小中学校を小中一貫教育の研究指定校にする。そのために、年明けとなるが平成29年度中に学校管理規則を改正して、新しくできた併設型小学校・中学校という小中一貫教育制度を採用していきたいと考えている。今までは小6から中1への接続を中心に連携してきたが、今後は義務教育9年間で子供を育てるという意識を小中学校全ての教員が持ち、ゴールである15歳の姿を小中の教員で共有していきたい。さらには中学校区単位でマネジメントする組織をつくり、小中の管理職や教務主任等が集まって教育課程の組み方や子供をどのように育てていくかという話し合いを定期的に設けたい。さらには学校評議員が現在学校ごとにいるが、最初と最後の会議は中学校区単位で行い、中学校区単位でどのように子供を育てているかということを見た上で評価していただきたいと考えている。また、人事上も小中で積極的に人事異動を行うことを考えている。余裕がある学校では、小中乗り入れ授業を行い、小中一貫教育を推進していきたいと考えている。

続いて、教職員の働き方改革についてだが、先ほど教育次長から話があったとおり、本年度4月から教職員の勤務時間をカウントしたところ、5～6月の中学校教員の勤務時間外の時間数が非常に多く、80時間が過労死レベルと言われているが、これを超える教員が3割以上いることが判明した。3割以上が過労死レベルということで、これは対策が必要であると考えている。この5～6月は部活動が一番盛んな時期であり、5月には大会が、6月には中体連に向けた練習試合があり、その結果こうなったと考えている。調べると、土日祝日の時間外が30時間を超える教員はほとんどが月間80時間を超えているという相関関係があったため、これについてはまず、部活動の指導時間を制限し基準をつくるということで、現在校長会と話し合いを進め、年明けには実際に指導する教員の意見を受けて決めていきたいと考えている。現在考えている案は、土日のどちらか1日とする、1カ月の土日祝日の部活動の実施時間の合計は32時間以内とするといったものである。先ほども土日祝日の時間外が30時間を超えると、月間80時間を超えてしまう教員が多いといったが、32時間というのは、4週間のうち土日どちらかで1日練習試合を行っても、最高で32時間が限度だろうという考え方である。現実には土日両方終日部活動をやっているという学校もあり、生徒も大変だし、ここでは部活動の在り方をどうしようという話を抜きにして、まずは教員の部活動の指導時間を制限すると

いう方向で基準を作っていきたいと思っている。

もう一つ、議会の答弁にあったいじめ、不登校は、大きな問題となっており、中でもいじめについて、ネット上の見えにくいいじめが増えてきている。また、自校の教員に相談せず、市教委に直接相談をしてくるというケースも増加してきている。このような状況への対応として、沼津市のホームページにいじめ相談メールを新設する準備を進めている。年明けには開設できると考えている。自分がいじめられている、友達がいじめられている、あるいは子供や兄弟がいじめられている、このようなことをパソコンのメール、スマートフォン、携帯電話、いずれでも相談できるという形で現在システムの調整を行っているところである。

- 服部教育長 子供たちの状況や、小中一貫教育、教員の働き方改革、相談ネット、相談メールと色々な報告があったが、このことについて質問はあるか。
- 服部教育長 最後の案件であるネットの相談システムは学校内でも様々な窓口を設けて、誰にでも相談できる体制をとると同時に、学校以外でもネットで相談できる等、様々なルートで相談できる体制を全体で整えていきたいと思っている。
- 三好委員 部活動の勤務時間の問題に関して、ある一定のスポーツは中学校の時から時間をかけて活動しなければ成績が上がらないということもある。しかしそこまで担任の先生が土日もなくずっと朝から晩までずっといるようでは、大変すぎる。自分も昔は陸上部だったが、土日の片方しか顧問は出なかった。
- 学校教育課長 現在は安全面からも必ず部活動には顧問がつかないといけないことになっている。生徒のみの活動はしてはならない。
- 服部教育長 部活動の在り方については国のガイドラインが出るのを受けて、県でも年明けくらいにはガイドラインを出す予定である。
- 学校教育課長 あくまでも教員の勤務時間外の制限ということで、過労死レベルにいかないような対策を立てるということである。
- 服部教育長 他に質問はあるか。  
無いようなので、以上をもって本日の定例会を終了する。

午後 4 時 20 分 閉会